資料4
令和6年9月 20 日
令和6年度第1回千代田区生物
多様性推進会議

【レインガーデンへの助成について】

【レインガーデンとは】

地上に降った雨水を下水道に直接放流することなく一時的に貯留し、ゆっくりと地中に浸透させる構造を持った植栽空間です。

下水道負荷、蒸発散による温熱環境の改善などもメリットがあります。

「グリーンインフラ」や「ネイチャーポジティブ」を構成するひとつの方法として考えられています。

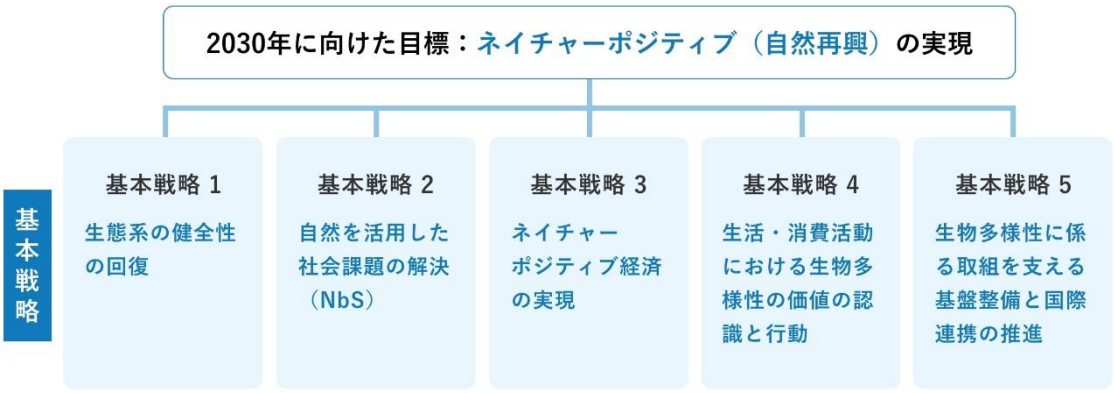
【グリーンインフラとは】

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能で魅力あるまちづくりを進めようという考え方です。

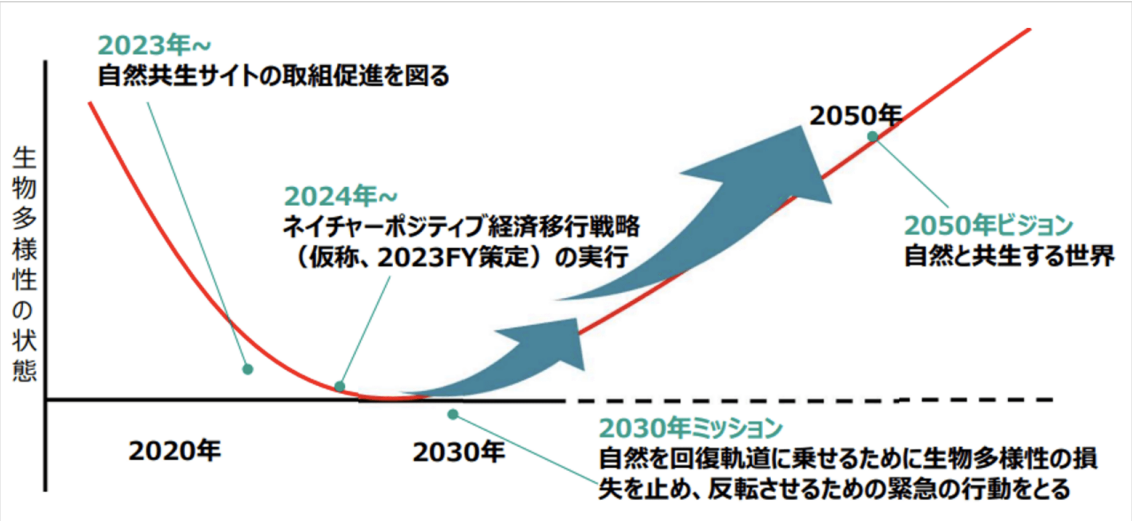
※東邦レオ株式会社ホームページより引用しています。

【ネイチャーポジティブ】
企業・経済活動によって生じる自然環境への負の影響を抑え「生物の多様性を維持する」という従来の発想から大きく踏み込んで、「生物多様性を含めた自然資本を回復させる」ことを目指す新たな概念のこと。

次の資料は、環境省のホームページより引用しています。

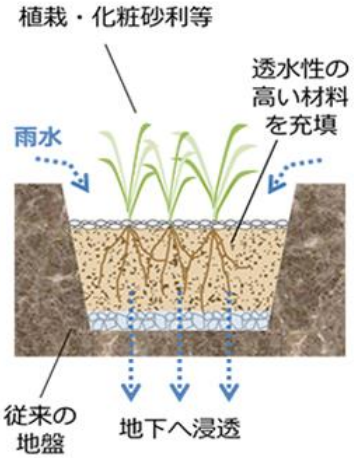


出典：J-GBF「ネイチャーポジティブ宣言の呼びかけ」より
https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/j-gbf/naturepositive/promotion/



【レインガーデンの構造】

緑地帯の土壌の下が砕石など保水性を持たせた材料で構成されており、降雨時の雨水の保持及び土中への浸透性を高くしています。



・レインガーデンと一般の植栽の違い

周りの雨水が流れ込む

雨水の浸透性が高い

雨水を貯留する能力がある

（参考イメージ　　丸の内　仲通り）

○　外構緑地に部分的、計画的に雨水浸透能力を高めた部分を設け、周囲からの雨水を集めて浸透させます。これによって、豪雨時の表面水が敷地外に流れ出すことを抑制します。

千代田区では、皇居や外濠周辺を除けば公園などの緑地は少なく、建築物の緑地が大部分を占めます。その一部をレインガーデン化することで雨水による下水道負荷の低減し、地面にしみ込んだ雨水は、地面の温度上昇の抑制をすることにもなります。

【千代田区のレインガーデン助成について】

・助成対象者

建築物等の所有者又は建築物等の全部若しくは一部の借主。

・レインガーデンの基準

雨樋の接続等により周囲から雨水を集水する構造を有し、砕石層（深さ 30 センチメートル以上のものに限る。ただし、個人が所有する住宅に設置する場合は、深さ 10 センチメートル以上とする。）又は雨水貯留浸透施設（雨水を一時的に貯留し、地下に浸透させる機能を有する施設をいう。）の整備により高い貯留浸透能力を持つ緑地であること。

・助成金額

対象経費の 1/2　上限 50 万円

※　対象経費に含まれるもの。植栽基盤の整備費、植栽経費、調査費。